

| | |
|------------------|---|
| Title | 表紙 目次 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 慶應義塾経済学会 |
| Publication year | 1960 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.53, No.7 (1960. 7) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19600701--001 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田學會雜誌

1960年 7月号

論 說

- 一四世紀後半リュベック市会の構成……………高村 象 平 1
- 農家経済の再生産構造と農民層の分解……………常 盤 政 治 11
- 長野県諏訪市湖南地区
真志野集落を素材として——

資 料

- 年齢別女子労働力率の変動要因……………尾 崎 巖 37

学 界 展 望

- いわゆる「年功賃金制度」論……………黒 川 俊 雄 64

書 評

- 津田真澄著『労働問題と労務管理』……………中 鉢 正 美 72
- アーサー・ブリッグス編『チャーチスト研究』
F. C. マーザー著『チャーチストの時代に……………飯 田 鼎 78
おける公共秩序』
- 中山伊知郎
南 亮 進 共著『適度人口』……………安 川 正 彬 82
- 加藤 寛 著
丸 尾 直 美 著『社会化と経済計画』……………原 豊 87

新 刊 紹 介

53 卷  号

昭和25年10月24日
昭和26年7月1日
昭和35年7月1日
第三種郵便物認可
行特別送承以第1
行(毎月1日
行)

昭和三十五年六月二十四日
昭和三十五年六月二十四日
第三種郵便物認可
行特別送承以第1
行(毎月1日
行)

三田学会雑誌

昭和三十五年六月号

定価 金九〇円 (八送円)

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 53, No. 6

June, 1960

CONTENTS

| | | |
|---|----------------|----|
| Union-Management Relations and Joint Consultation in Japan..... | K. Fujibayashi | 1 |
| A Study on the Economic Structure of Japanese Fisheries..... | R. Takayama | 8 |
| Sir Thomas More's Social Thought Appeared in His Earlier English Works..... | W. Watanabe | 23 |
| William Godwin Bibliography (3)..... | A. Shirai | 37 |
| Survey of Academic Circles | | |
| Population and Economic Change in Late Medieval Europe..... | K. Watanabe | 45 |
| Book Reviews | | |
| The Growth of British Industrial Relations, by E. H. Phelps Brown..... | K. Iida | 53 |
| The Status Seekers, by Vance Packard..... | I. Ishizaka | 59 |
| Theory and Policy of Accounting Prices, by Abdul Qayum..... | S. Furuta | 63 |

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
 (The Keio Economic Society)
 Editorial communications to be sent to
 the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
 Keio-Gijuku University,
 Mita, Minatoku, Tokyo, Japan.
 Price 90 yen

新刊紹介

- マシューズ著『景気循環』……………大熊一郎 93
国際経済学会編『論争・国際価値論』……………矢内原勝 93
島恭彦著『現代の国家と財政の理論』……………大島通義 94
『講座・社会保障・第三巻』……………藤沢益夫 95
加藤寛著『ソ連の経済成長と経済計画』……………丸尾直美 96

一四世紀後半リューベック市会の構成

高村象平

一四世紀の後半に北ドイツの諸都市——いわゆるハンザ諸都市において、手工業者の暴動が発生した。一三七八年のケルン市、一三六五年のブレイメン市、一三七四年のブラウンシュヴァイク市、一三七六年のハンブルク市、一三七八年のダンチヒ市、一三八〇年および八四年のリューベック市、一三九一年のシトラールズンド市等におけるものこれである。これらの暴動の直接原因は、いうまでもなくそれぞれの都市内部における特殊事情に発するのであって、その限りにおいて別個の暴動であったわけであるが、しかしその反面に共通の原因が作用していたことは否みえない。それはデーネル教授の言葉をもってすれば、「都市行政の費用の問題が、反抗を生む決定的なものであった。」⁽¹⁾換言すれば、それぞれの都市における財政窮乏、これに對処するための増税ないし新税賦課の立案、これらについて全市民の賛同要請、これを不満とする手工業者の市政参加の要求、

一四世紀後半リューベック市会の構成

という一連の相類似した経過が、諸都市の暴動の共通の契機となっているのである。要するに手工業者が市政参加から遠ざけられていたことに対する不満の鬱積であった。

ハンザ諸都市における手工業者は最初から市政と絶縁していたのではなかった。リューベック都市法をもつ都市においても、当初は手工業者も市会に加わることができたのである。⁽²⁾しかし時の経過とともに所有の不均等が増大するにょよんで、富裕者(Handels, H. Class)すなわち上層商人(Belohof)だけが市政を支配するようになった。リューベックの市会選挙規則にみるように、手工業者を市会から閉めだすことが原則となったのである。ただしそののちにおいても、市民全体に関係ある重要問題の決定に際しては、市会はこれを市民集会に附議して全体の意見を徴する措置をとっていたのであって、たとえそれが形式的審議にほかならなかったとしても、⁽³⁾一概に有産者市会の専断に終始したとはいえないのであった。前記の増税ないし新税の課徴案に際しての市会の態度はこの慣行に副